

第39回

多摩めぐり

2023
10/21(土)

多摩を深める 武蔵国国府は 1300 年前なぜ府中に? 府中の国府跡・大國魂神社 と 砂利電・競馬場を巡る



武蔵府中熊野神社古墳



大國魂神社



くらやみ祭 道清めの儀



くらやみ祭 神輿渡御

縄文時代、弥生時代に続いて奈良の纏向(まきむく)からの大和政権が、全国へ支配を広げて前方後円墳が支配受容を実現した印になりました。各国支配は、地域有力豪族を国造に指名し、全国の行政制度が整えられた 701 年の大宝律令施行後の 703 年にはわが武蔵国に天皇支配統制の国司(いわば現代の県知事)が派遣されました。それまでは、武蔵という東国の大国では、天皇家に助けを頼んで北関東の豪族を破った、埼玉県行田市の埼玉古墳群周辺の一族が中心でしたがなぜ大きな古墳もない府中市に国司がおかれるようになったのか、その事由が定かには判明せず謎が謎を呼んでいます。

ここ府中市は、八王子市、町田市に次いで東京都下で人口が 3 番目に多い市です。多摩川を挟んで、昔から地域の中心都市として、六所宮で広がる大國魂神社の神威はもとより、鎌倉時代終末の大戦もあり、徳川家康の江戸入り後は古甲州道が整備されて甲州街道の府中三宿といわれた宿場町でもあり、毎年五月には大國魂神社のくらやみ祭で大賑わいします。行政機関・病院等の公共機関が数多く集積する主要都市です。

国府設置後には大國魂神社中心の交通網が拡がり、その後明治以前の川砂利需要急拡大で、多摩川の川砂利採取が盛んになり砂利電車が走りました。砂利掘り後の大穴には競艇場もできました。そうそう、東京競馬場も忘れてはいけません。



旧武蔵国



国衙・国庁・国府



砂利電・下河原鉄道



東京競馬場

◆コース

南武線西府駅 → 御嶽塚古墳 → 武蔵府中熊野神社古墳 → 高倉塚古墳 → 分倍河原駅 → 新田義貞像 → 高安寺 → 下河原線跡 → 番場宿 → 御旅所・高札場 → 善明寺 → 坪宮 → 府中本町駅 → 国司館と家康御殿史跡広場 → 大國魂神社 → 東照宮 → ふるさと歴史府中館 → 宮乃咩(みやのめ)神社 → 馬場大門櫓(けやき)並木 → 源義家像 → 府中駅 → 明治天皇行在所 → 国史跡武蔵国府跡(国衙地区) → 京所道(きょうづみち) → 猿渡家墓所 → 多磨寺跡 → 府中競馬場前駅 → 武蔵国府八幡神社 → JRA 東京競馬場東門 → JRA 競馬場博物館 → (ちゅうバス) → 府中駅

* 集合日時: 2023年10月21日(土) 午前9時30分 小雨決行

* 集合場所: JR南武線 西府駅改札 南武線府中本町駅から立川方向二つ目の駅)

(解散は、JRA 競馬場博物館からちゅうバス利用後京王線府中駅を予定、15時半過ぎ)

* ガイド: 須永 俊夫

* 費用: 参加費 1,000 円(資料代・傷害保険料等)

(競馬場入場料¥200、ちゅうバス料金¥100 は個人払いでお願いします。)

* 募集人員: 30 名(先着順)

* 持ち物: 弁当・筆記用具・雨具・飲み物・他

* 申込方法: 氏名・年齢・住所・電話番号を明記し、Eメールで「多摩めぐりの会」事務局へ

* 申込と問い合わせ: 「多摩めぐりの会」事務局 Eメールアドレス ⇒ tama.meguri@gmail.com

* 当日の連絡先 090-7286-2124 (味藤・みとう)

申込締切 10月14日(土)

☆予告 次回は11月22日(水)、「130年前にあった三多摩東京移管、その経緯を町田で探る。併せてこの地で創業したクリクラ水製造工場を見学」を予定しています。